

うみっこ通信

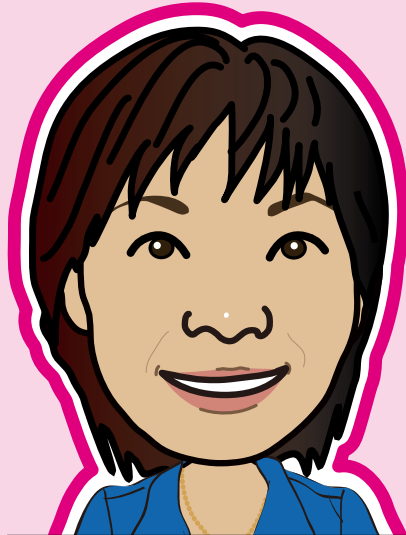


滋賀県立
琵琶湖博物館

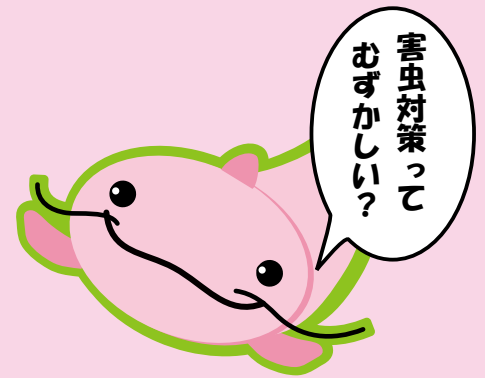
LAKE BIWA MUSEUM



教えてください



おい ふみこ
老 文子 学芸員



害虫対策ってむずかしい?



とみえけ
農家のくらしを再現した富江家 (C展示室)

おけ ぶ ろ 近江の桶風呂と がいちゅうたいさく 害虫対策

今回登場する老さんは、琵琶湖博物館の学芸員の中で一番新しく採用(2007年9月)された学芸員です。

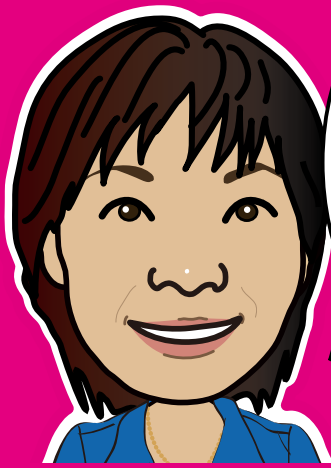
大学では、民家や町なみ、民具などを研究し、現在も琵琶湖博物館で昔のくらしについての研究をしています。昔のくらしを知ることによって、これからのくらしをより良くするにはどうすればよいかを考えることができます。今回は、滋賀県の農村で昭和の時代まで使われていた桶風呂について紹介します。

また、琵琶湖博物館では、展示物だけでなく滋賀県を中心に様々な資料を集め、保管しています。その資料を保存する場合に、特に注意しなくてはならない害虫対策について紹介します。

2010.8
No.4

目次

- 1 今回の特集
- 2 近江の桶風呂
～農家のくらしの知恵～
- 3 資料を守れ!
～琵琶湖博物館の害虫対策～
- 4 うみっこトピックス
「湖底探検～びわ湖の底はどんな世界?～」



おじいちゃんや
おばあちゃんに桶風呂の
話を聞いてみよう！

おうみ おけぶろ 近江の桶風呂

～農家のくらしの知恵～

ぜひ、見に行ってみよう！



【写真1】扉のついた
湖東の桶風呂
(彦根市教育委員会)

どんな風呂に入っていたの？

昔は、木桶の丸いお風呂に入っていました(写真1)。滋賀県の湖北、湖東、湖南の人たちは、湯につかるだけでなく、桶の中に蒸気をこもらせて体を温める、今のお風呂とサウナの中間のような風呂に入っていました。

桶風呂は今も見ることができますか？

琵琶湖博物館のC展示室の富江家(写真2)に展示があります。【写真2】富江家の桶風呂

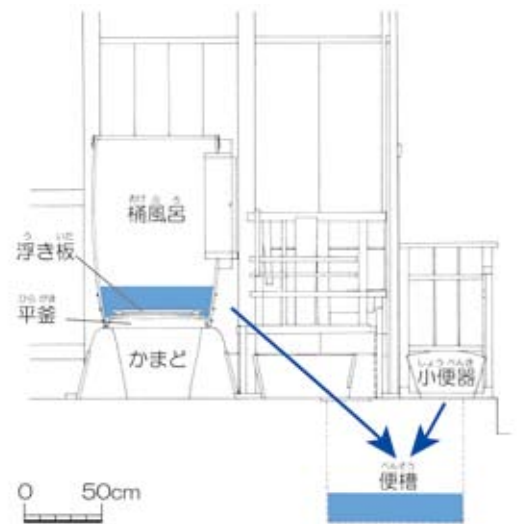


【写真3】農家のカワトと川
(彦根市肥田町鹿島家)

水汲みは 子どもの仕事!?

子どもが、カワト(写真3)と呼ばれる石段を降りて、川から桶で水を汲み、桶風呂まで運んでいたそうです。

この風呂のことを、ゴエモンフロ
ヤオケフロなどと呼んでいたんだよ。



【図1】桶風呂のしくみ

桶風呂への入り方は？

入浴する時は、湯に丸い薄い板(浮き板)を浮かせ、それを踏み沈めながらゆっくりとすわり湯につかります。お湯はへその下ほどしかありません。

桶風呂からわかったことは？

桶風呂は、少ない湯と蒸気で体を温めるので燃料の節約になり、沸かす時間も短くてすみます。残り湯は小便と混ぜて肥料として利用する(図1)ので川の水を汚しません。

桶風呂は節約型
のお風呂だね！



資料を守れ！

資料を害虫から守り、
保存していくのは、
大変なことなんだね！



がいちゅうたいさく ～琵琶湖博物館の害虫対策～



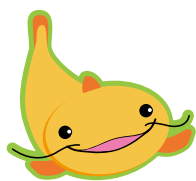
【写真1】 民俗収蔵庫

琵琶湖博物館の資料はどこにあるの？

琵琶湖博物館では約40万点の動物や植物の標本・化石・民具・写真資料などを収蔵庫（写真1）と呼ばれる部屋で保管しています。害虫やカビから資料を守るため、温度と湿度を24時間一定に保っている特別な部屋です。

害虫はどんな悪さを するの？

害虫は資料を食べてしまいます（写真2）。資料を食べるだけでなく、食べてできた穴を利用して巣を作り、卵を生むので、さらに被害が大きくなります。ここでいう害虫とは、みんなの家でも見られる、台所にいるゴキブリや、タンスの中で服を食べるセイヨウシムシ（写真3）などです。



展示室でも
資料を見ることが
できるよ！



【写真2】 害虫に食べられた資料



【写真3】 セイヨウシムシ



【写真4】 粘着マット

資料をどのように守っているの？

琵琶湖博物館では、人や自然に害を与えるガスをできるだけ使わずに、害虫の侵入や害虫を増やさないための取り組み（総合的有害生物管理）を行っています。英語では、Integrated Pest Management（略して、IPM）と言います。

アイピーエム IPMでは何を するの？

①カビの発生を防ぐ温度と湿度の管理、②害虫のエサをなくすための掃除、③害虫の侵入を防ぐため、スリッパの履き替えや粘着マット（写真4）を設置、④害虫がいるかどうかを知るための調査、などを行っています。

博物館に来る人たちが、 気をつけることは ありますか？

食べ物は害虫のエサになるので、展示室に持ち込まないでね！休憩スペースでは食べカスを落としたり、飲みこぼしをしないように注意してね！

うみっこ トピックス

専門学芸員 芳賀裕樹 (企画展担当)

今年度の
企画展示だよ!

琵琶湖博物館第18回企画展示

こていたんけん 「湖底探検～びわ湖の底はどんな世界?～」

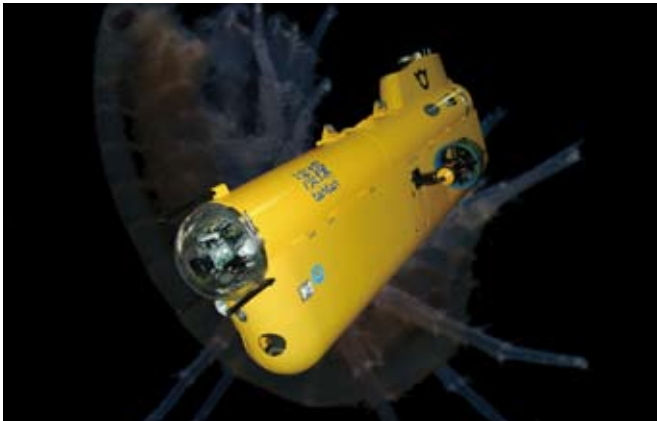


写真1

今年の琵琶湖博物館の企画展示のテーマは「びわ湖の底」です。びわ湖の水深は最大で約104m。深さでは、海とは比べものになりませんが、深海と同じか、あるいはそれ以上によくわからない世界です。なにしろ、人が行ったことがほとんどないのでから…

今回は、琵琶湖博物館と滋賀県琵琶湖環境科学研究センター・滋賀県水産試験場が力をあわせ、それぞれの研究成果をもちより、謎に満ちたびわ湖の湖底(湖のそこ)がどこまでわかったのかを展示しています。中でも注目なのは、自律型潜水ロボット『淡探(写真1)』やリモコン式水中ロボット『ROV』が撮影した湖底の映像です。

写真2はびわ湖で最も深い地点の湖底の様



写真2

子です。大きな岩が転がっており、岩にはびわ湖の固有種ビワオオウズムシが、たくさんくっついてます。こうした光景は、船から網を降ろして採集していた時には、まったく思いもよらないものでした。

写真3は湖底のヨコエビ。地面があるとすぐ横になるのでヨコエビと名づけられたこの動物は、数が多いのでいまや『湖底の主』とも言える存在です。



写真3



写真4

このほか、びわ湖の湖底の形がよくわかる幅1.8m、縦3.6mの巨大な模型(写真4)や、深い湖底の水温変化を体験できる装置、水圧でつぶれたカップめん容器、湖底と魚の関係、ゴミなどの環境問題を解説したコーナーもあります。

この企画展示を見れば、湖底のことがわかると同時に、まだまだ謎が多いことも知ることができます。もしもあなたが湖底探検をしたら…?

そんな想像をしながら、楽しんでください!

